

第12回新聞感想文コンクール

茨城新聞創刊130周年記念

茨城新聞創刊130周年記念「第12回新聞感想文コンクール」は、4部門の入賞者52人が決まった。最高賞の文部科学大臣賞、茨城県知事賞を受賞した8人の作品を掲載する(敬称略)。

文部科学大臣賞は、小学校1〜3年生の部が森寛久郎さん(筑西市立関城西小3年)、小学校4〜6年生の部は金久保ゆきのさん(石岡市立東成井小5年)、中学生の部は森美雪さん(牛久市立ひたち野うしく中3年)、高校生の部は吉原世莉那さん(県立下館工高3年)の作品が選ばれた。

コンクールは、茨城新聞社と茨城新聞を扱う茨城会(山本恒会長)が主催。子どもたちが新聞を読み、感想を書くことで、地域や社会に関心を広げ、読解力や表現力を養ってもらうこと、毎年開催している。

応募総数は2548点。小学校1〜3年生の部に274点、小学校4〜6年生の部に1016点、中学生の部に134点、高校生の部に1124点の応募があり、2年連続で過去最多となった。

入賞作品は、コロナ禍や環境、差別など社会問題をテーマに、豊かな感性で分かりやすく表現した。

取り組みが顕著な学校に贈られる学校賞には、ひたち野うしく中、つくば市立高崎中、関城西小、阿見町立竹来中、県立古河中等教育学校、日上市立楯形小の6校が選ばれた。

表彰式は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止した。



第12回新聞感想文コンクールの最終審査会。2021年12月20日、水戸市内

文部科学大臣賞

小学校1〜3年生の部



「グッドアイディア」

筑西市立関城西小3年

森 寛久郎

「グッドアイディア」。ぼくの誕生日の新聞にすばらしい考えの記事を見つけた。鹿嶋市でプロサッカーを目指している木村さんがTシャツを販売して環境保護に役立っているお話を。

遊んでいる海岸にもごみがあることに気が付きました。きちんと処理されず海に流れてきてしまったごみを少なくするために、ごみ拾いを始めたTシャツを通して、今の海の状況を多くの人に知ってもらい、コロナでごみ拾いに来ることができない人にもTシャツを買ってもらおうと



鹿嶋の海 守りたい

「グッドアイディア」は、環境保護のために、ごみ拾いを始めたTシャツを通して、今の海の状況を多くの人に知ってもらい、コロナでごみ拾いに来ることができない人にもTシャツを買ってもらおうと

小学校4〜6年生の部



「届け! みんなのランドセル」

石岡市立東成井小5年

金久保 ゆきの

昨年、姉が「ランドセルギフト」に参加しました。私も興味をわき、「6年生になったら私もやりたいな。」と思っていました。そんな時この新聞記事に出会いました。ランドセルを寄付する以外にも、写真立てや小物類にリメイクさせることができることを知って、とてもおもしろかったです。私のランドセルがさいふ

スターや手紙を作り、プレゼントシートをして、ランドセルギフトの有志を募りました。私もその意思を引き継ぎたいと改めて思いました。約千三百人のランドセルについてアンケートの結果に、とてもおもしろかったです。五十六パーセントがランドセルを自宅に保管。十九パーセ

今はアフガニスタンがとてもきびしい状況であることを毎日ニュースや新聞で見聞します。ランドセルはもしましたら今は届かないかもしれないけれど、アフガニスタンのことをたくさんの人に知ってもらい、ランドセルギフトの活動もたくさんの人に知ってもらおうことが、私の今できることの一つだと思います。アフガニスタンの子供たちへランドセルが届きますように。

中学生の部



「小さな積み重ねで繋がるたくさんの笑顔」

牛久市立ひたち野うしく中3年

森 美雪

新型コロナウイルスが今、世界中で猛威を振るっている。私たちは日々の生活の中で感染症対策を行いつつ、一刻も早くこの事態が収束することを願っているが、現実はずう甘くない。

私は、発展途上の医療を支援する方法として「フェアトレード」を推奨する。フェアトレードとは、発展途上の原料や製品を適正な価格で継続的に購入し、生産者の生活改善を目指す貿易のしくみのことだ。このフェアトレードにより、人々が十分な収入を得ることができれば、医療費を支払うことができるため、よりたくさんの命が救われるだろう。



「第五波」では、各地で新規感染者数が想定を上回り首都圏を中心に医療崩壊が発生した。入院すべき患者が入院できず自宅療養を強いられ、その後死亡する例も多く見られた。専門家は「災害時に近い局面」と警鐘を鳴らしているが、次々と現れる変異株や出口の見えない不安で国民の間には暗雲が垂れ込める。日本の医療体制が危機的な状況にある中、私はアフリカを中心とした

発展途上の医療を支援する方法として「フェアトレード」を推奨する。フェアトレードとは、発展途上の原料や製品を適正な価格で継続的に購入し、生産者の生活改善を目指す貿易のしくみのことだ。このフェアトレードにより、人々が十分な収入を得ることができれば、医療費を支払うことができるため、よりたくさんの命が救われるだろう。あなたは、「国際フェアトレード認証ラベル」のことを存じだろうか。このラベルはフェアトレードで作られた商品に付いている。身の回りのコンビニやスーパーマーケット、ショッピングモールなどで、このラベルが付いた商品を探してみよう。

高校生の部



「『絶望』でも相談し続けて」

県立下館工高3年

吉原 世莉那

お笑い芸人のキタロー。さんの写真上の「絶望」という文字が目をつけた。モノマネや社交ダンスの実力から、努力の人というイメージがあるから、そこからのエピソードなのかと読み進めた。

「ヤングケアラー」初めて耳にする言葉だった。日常的に家族の介護、家事などを担っている十八歳未満の子どものことを指すらしい。一口に介護と言っても、病気、障害、精神疾患、様々な要因が

ある。中には、介護をするのは当然のことと思っている子も多いらしい。子どもが頑張ることで、実態の把握が難しいのではないかと、その負担は大きく、次第に、孤独

入賞者の作品を掲載した「優秀作品集」を発行しました。順次各校にお届けします。

新聞から「生きる力」を



「このように学習活動の過程には、目的意識を持つことで新聞記事を選び、主体的に読む。主体的な学び、新聞記事を通して考えを整理する。文章力も優れ、小学校高学年の高い表現力を感じました。」

県新聞教育研究会長 小岩 泰規

中学生の部では、コロナ禍から、貧困、経済格差など、社会の諸問題を捉え、関連資料も活用している作品が多く見られました。また、人々の生き方から自らの行動を見つめ直し、今後の生き方の指針とするなど、感性の豊かさや頼もしさを感じました。

「絶望」でも相談し続けてという、キタロー。さんの声は、たごえんさんに苦しんでも人生を諦めなかつた先輩として、多くの人の勇気へと繋がったにちがいない。この記事を読んで、介護の深刻な現実には、私としても学ぶことがあった。今、こうして生活が出来るありがたさ。その人の立場にならないうちから分らない本気の気持ち。家族を大切にすることを大切にする世の中であって欲しい。そう心から強く思った。